

開館3周年記念：美術館・友の会共同事業

金沢の包み紙展

2007.9.14^{FRI} ~ 10.21^{SUN}

金沢21世紀美術館 デザインギャラリー

この記事は「開館3周年記念：美術館・友の会共同事業 金沢の包み紙展」のためのブログ（2007年6月15日～2008年3月31日）に掲載されたものです。

©金沢21世紀美術館

募集中

2007/06/15

ちょっとずつ情報も集まってきました。金沢の包み紙の奥深さを感じています。



プロジェクトメンバー集合！第一回会議がありました

2007/06/19

6月18日（月）金沢21世紀美術館の展示ゾーンはお休み。いつもの賑やかなまるびいですが、今日は静かです。でも、朝顔のつるに囲まれた「まるびい」の一角で、密かに、熱く、デザインギャラリー企画展「金沢の包み紙」に向けて、第1回会議が行われました。

これからは、このブログで「金沢の包み紙」展に向けて、現在進行形で「一体チマチマと何をやってんだろう？」というところを皆様にお知らせしていこうと思っています。

今日集まったメンバーは、美術館側からは交流課の担当者、友の会の担当者。友の会会員からのプロジェクトメンバー5人。今回のプロジェクトには企画段階、収集や調査の段階から、友の会会員からのメンバーが加わります。「まるびい」に集うお客様と同じ様々なバックグラウンドと人生経験をもったメンバーです。

そして、現在チラシやHPで呼びかけている「金沢の包み紙」の収集状況。丹念に保管されていた方から、何十年も前の包み紙の提供がたくさんありました。

これからはまず「包み紙」の「色」と図柄の「モチーフ」に着目しながら、メンバーが市内のお店に足を運び、それぞれ「突撃、アポ無し飛び込み」取材を行い、包み紙をまずは集めていこう！ ということで話し合いを進めました。

私たちプロジェクトメンバーだけではなく、皆様方からの温かい、そして熱い、幅ひろい後方支援がとても大切になってきます。その意味でも、このブログを読まれて「あ、こんなこと知ってるよ」「幼稚園で子供が包装紙がいるからって集めた残りがああるよ」「ここのお店、ひいきにしてるんだけど、小粋な包装紙なのよ」と思われた方、どうぞ美術館の方にご連絡ください。

tel : 076-220-2800

e-mail : tomonokai@kanazawa21.jp

これからは「金沢の包み紙」というネームが入った名刺を持ったメンバーがお店に伺うかもしれません。私たちも初めての経験なんで、ドキドキしています。どうぞよろしくお願いします！

プロジェクトのメンバーはこんな名刺を持って、お店に伺っています。どうぞよろしくお願いします！



包み紙を求めて！ 取材レポ

2007/06/23

梅雨入りですね～。昨日は一日土砂降りでしたね。
昨日の早朝、また能登の方で地震がありました。金沢も震度1でした。

さて、先日アップした名刺を持って、プロジェクトメンバーが金沢のお店を巡って包み紙調査を開始。その報告レポ第一号です。

Mさんからのレポ

「楽天家の私もドキドキでお店に入ります。名刺を出しながら自己紹介すると、皆様なんと優しいのでしょうか。お店の方からいろいろ話してくれます。一軒目安堵しますが、二軒目もドキドキで頑張って入ります。同じく迎えてくれました。なんと有難い事でしょう。私の回ったお店の方、改めて御礼申し上げます」

Mさんは、ずらりとお店が軒を連ねる商店街と、あるデパートの地下の名店街を回ってきました。

包み紙を求めて！ 報告レポ 続々

2007/06/23

Hさんからの報告レポ

「前々から店の前を通りながらなんて素敵なお店、一度は入ってみたいと思っていたお店だったので」と。お勤め先の近くの、老舗の本店に行ってきました。「創業寛永2年、実に300年以上も前からのお店の標をずっと使っている包み紙。古さを感じないポップなモチーフで驚いた。お店の歴史をまとめた小冊子も頂いた」

Nさんからの報告レポ

「自転車でお寿司屋さん、和菓子屋さん、大きな料亭を回ってきました。雨が途中で降ってきて、せっかくいただいた包み紙を雨から守ろうと苦労しました」と梅雨の金沢ならではの苦労を報告してくれました。

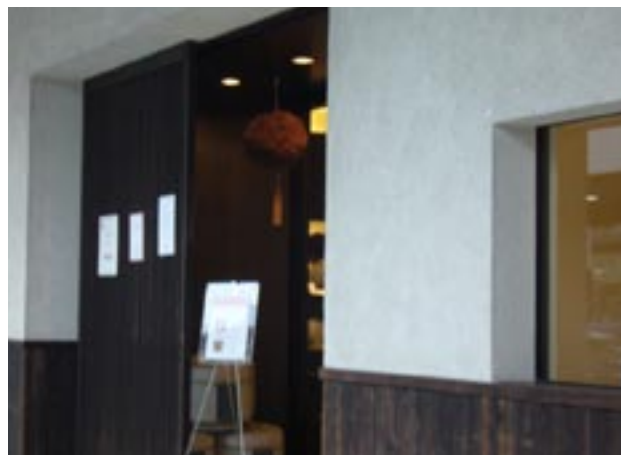
続けてNさんレポから

「名刺とご説明だけで、みなさん快く包み紙をくださいました！最初は怪訝な顔をされるのですが、そのうち笑顔で接して下さいます。『いろんなことしとるんやね』とか『宣伝しといてね！』と言われました。無いと言われたときでも、昔使っていたものが残っていたりしたので、ちょっと粘ってもいいかも」

金沢のお店皆さん、本当にご親切にありがとうございます。どうぞこのプロジェクト、温かく見守ってやってください。私達もガンバリマス！

外から撮影してもOKと了解を得ましたので、メンバーが伺ったお店を一つ紹介します。

ありがとうございました！



捜査は足で！ 報告レポ 続々・続々

2007/06/24

私が大好きな昔の刑事ドラマでのセリフ。「捜査は足で稼げ！」

いまやネット全盛の時代でネットで買い物もできる時代。でも、直接お店に伺って、顔を合わせてお話をお聞きして、実際にもの（包み紙）を受け取る。こんなに素敵なことなんだと改めて実感です。

Mさんからのレポをご紹介します。

「最近百周年記念展もしたその書店では、その時の包み紙も何種類か保存してあるとのこと」。何か特別な時に作った包み紙や、過去の包み紙、通常の包み紙いろいろありそうで見せていただくのが楽しみです。

「九谷焼の老舗店では、包み紙のデザインは40年変わ

ってないが、色が少しずつ変わってきてる」そうです。デザインのモチーフ（ロゴマークや図柄）と色に注目しているので、色が変わっていくことは着目点だと思います。ロゴマークも金沢ならではの石川門、兼六園の灯籠、お店の商標など思い入れもいろいろありそうです。

Mさんは呉服屋さん、漆器屋さん、お菓子屋さんと回りましたが、一軒「名刺を提示すると『（プロジェクトのことを）知ってますよ』と言われた」と。インターネットでさっそくアクセスしてくださってたそうです。

金沢21世紀美術館に、アートファンだけではなく、金沢市の街の人の注目も集まってる！ 改めて実感しています。

桐工芸のお店

2007/06/26

包み紙ではないけれど、こんな素敵な袋もありました。桐工芸のお店です。



エムザ地下の和菓子屋さん全店舗の包装紙を出して頂きありがとうございます。きちんと説明書きもされ、ここまでして頂けるとは思いませんでした。お中元商戦の大変な時に、ひとつ仕事を増やしすみませんでした。金沢

の和菓子の老舗店が揃っている事も凄いですね。この企画に協力し行動して頂いたHさん、Kさん本当に有難うございました。

Mより

第2回ミーティング

2007/06/30

6月28日(木)

一雨降って晴れた夜、「まるびい」は展覧会ゾーンは閉場、照明も落ちて静か。眠ってる「まるびい」？ あら？ 角の会議室だけ人が集まっているぞ？「金沢の包み紙プロジェクト」第2回ミーティングが開かれました。

メンバーの「足の捜査」包み紙収集の報告

たくさんのお店が協力してくださり、たくさん包み紙が集められました。

お中元商戦、氷室の日も近いこの時期、お忙しい中を私たちの稚拙な説明を熱心に聞いてくださった金沢のお店の皆様方、改めましてこの場を借りて心より、感謝いたします。ありがとうございました。

今後のスケジュールも、いよいよ具体的な日付が、メンバーに伝えられました。

今後のミーティングにアドバイザーを招くこと、展覧会では、展示アドバイザーの方をお願いすることが伝えられ、プロの方の意見も聞けることでますます学ぶことがたくさんで、今から楽しみです。

このブログ、メンバーからどんどんアップしていこう！ということで、ログアップの仕方をみんなで画面を見ながら学習。

お店で名刺を出してお話することも初体験なら、このブログで全国発信することも初体験。でもみんな前向き！いきいき、わくわく、ドキドキしながら挑戦です！

6月30日が過ぎて

2007/07/03

「金沢の包み紙」の募集は6月30日をもって一応の締切を迎えました。プロジェクトとしてはこれから展覧会に向けて、いよいよ「収集」の次の段階へと進んでいきます。

ここで少し写真をご紹介しますね。

まず地元の新문에載った記事



会議室1

2007/07/03

今までミーティングを開いてきた会議室1を外から。
今はこのように、日比野克彦アートプロジェクト「明後日（あさって）朝顔プロジェクト21」として朝顔のつとロープにぐるりと囲まれています。



お役立ち優れもの

2007/07/03

お店から頂いた包み紙を無事、美術館に届けるときに大いに役立った〈秘密兵器〉（かなり大げさかな？）これ、
なんでしょう？
情報ラウンジにたくさん他美術館のポスターが掲示してあるでしょう？ このポスターが入れてあった筒です。



第3回ミーティング:秋元館長登場

2007/07/05

「包み紙を集める」のは6月30日をもって一応の終了となりました。いよいよ「展覧会」にむけて構想を練る段階に入っていきます。熱心にラブコールを送った甲斐あって、第3回ミーティングに秋元雄史館長が参加されました。

いつもより早く17時開始。このときは、集まったたくさんの包み紙を前にして、さてどうやって展覧会へとまとめていくんだろう…。正直、これからが本当に…私たちみたいな素人でできるんだろうか。最初は、まったくと漠然とした「いい」とか「ピンとくる」とか曖昧模糊としたインスピレーションで、何か方向を探るべく包み紙を分けようとしていました。

そこへ秋元雄史館長が来られました。4月に就任されて、友の会メンバーの中でもまだ「どんな人だろう？」とい



う状態。かくいう私だって、正直「いっぺん見てみたい」という好奇心のみでしたが。

最初は和やかに座っていらっしゃったんですが…。

熱気を帯びてきました

2007/07/05

美術館スタッフ、そして友の会メンバーにぐいぐいと迫る秋元館長さん。

「もっと具体的なポイントを抑えて、セグメント化していこう」

包み紙を床に並べてみる

2007/07/05

まず「和菓子屋さん」の包み紙を床に置いて、「模様」「一枚の絵として成り立つもの」といった視点から分類していくと…

あ…せっかくお店から提供してもらった包み紙を置くのですから…と全員靴を脱ぎました。

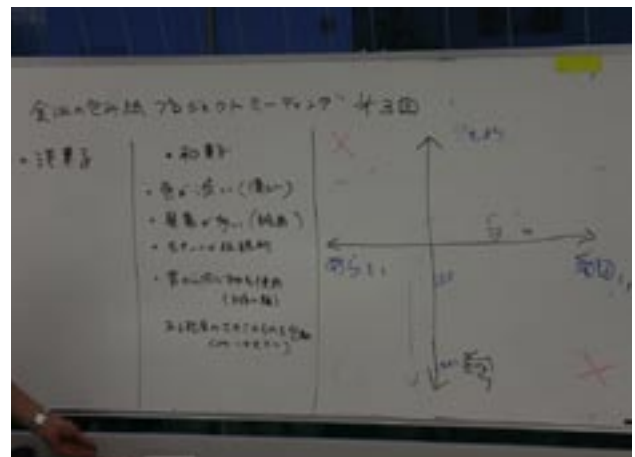
何かしら、方向性が見えてくる？



ホワイトボードに書いてポイント整理

2007/07/05

だんだん全員の考えがまとまってくる



21時

2007/07/05

お気づきですか？ とつぷりと夜になっています。

熱気を帯びて、あっというまの3時間余が終わりました。私自身、以前「まるびい」で行われた幾つかのワークショップにボランティアとして参加したことがあります。そのときにも感じた熱気が、秋元館長さんから伝わってきました。

熱〜い濃ゆ〜い時間を共有しあった第3回ミーティングでした。



次回までの宿題が出ています。

前回のミーティングを踏まえて、「金沢」「包む」などいろいろなキーワードに対して感じたことをまとめてくる。

前回はたくさんキーワードが出ました。

パターン・図・絵、包み紙の上下、斜め包み、日本の色…。金沢らしさ、包み紙らしさ…。

みんなの思いを寄せ合って、何か新しい発見をしたいですね。(那)



第4回ミーティング

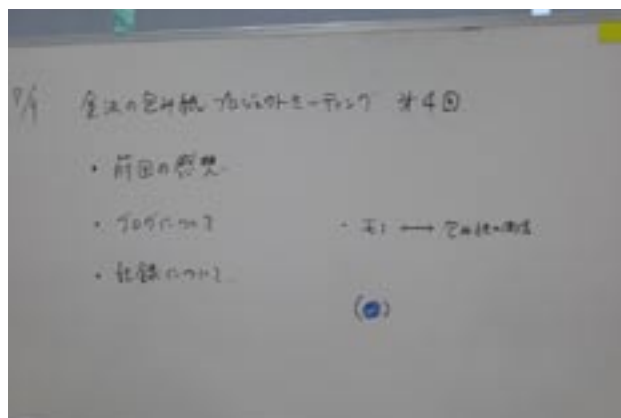
2007/07/11

7月9日(月) 18時～21時半、第4回ミーティングが行われました。

今回も熱気あふれた雰囲気、実況(たむ)が皆様にお伝えします。

最初は前回の感想から、宿題だった「キーワードについて感じたことをまとめる」こと。ブログの表記についてなど、確認事項。

ホワイトボードもまだ大人しい感じです。



「その他」について、色と図柄に注目すると？

2007/07/11

包み紙は、大体「和菓子」「洋菓子」「和菓子以外の食品」「工芸品(九谷焼や加賀友禅)」「その他」とジャンル分けしています。

前回ミーティングでは「和菓子」について、色と模様(図柄)に注目してセグメント化していきました。

今回は「その他」についてやってみよう。
その他って、でも、どんなもの？

百貨店だったり、洋装店だったり、傘屋さん、花屋さんなど。何か「和菓子とは違う」という印象が全員の共通認識に。

どこが違うんだろう。
どうやってそれを表現すればいいのか？
少しずつ、少しずつ…何かが分かってきた…。



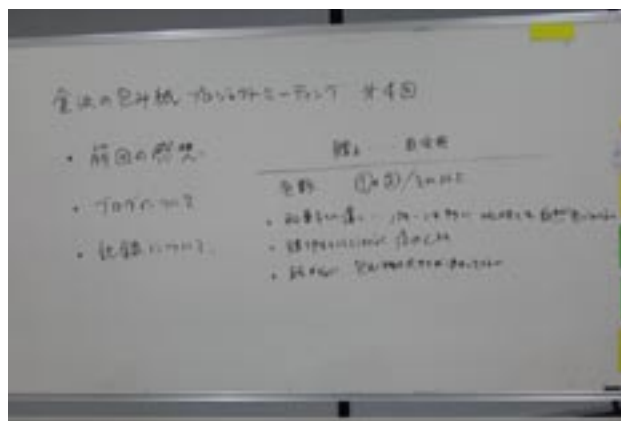
秋元館長が…「お、やってますな！」と。
うれしそうに顔を出されました。



いろいろなポイントが見えてきました

2007/07/11

すっかり言葉で埋まったホワイトボード。
ミーティングの熱気を伝えています。



第5回 ミーティング 7月17日「足の捜査の後は、裏をとれ！」

2007/07/22

夏休み前の3連休、あいにくの台風による豪雨、そして新潟中越沖地震災害。辛い思いをされた被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

前回から行っている「業種ごとに分けた包み紙の色と使われてる模様」に焦点を当てて分類しよう」では、『工芸』と『和菓子以外の食品』について行ってみました。石川県金沢が誇る伝統工芸というと、皆さんは何を思い浮かべるでしょう？ 九谷焼？ 加賀友禅？ 和菓子以外の食品というと、何かな？ かぶら寿しなどお漬け物、加賀麩、お酒、佃煮…。

さてこうやって全部を大体分けてみる作業を一通りやって、今度は「展示会の構成で核となる」〈柱〉はどうなるだろう？

やはり「和菓子が、一番包み紙をうまく使ってる業種ではないか？」という大筋が見えてきました。



足の捜査といってもメンバーが回ったほんの一部でもものをいってるだけ…ではなかろうか？ 思いこみだけで言っていないだろうか？
そもそも金沢ではホントに和菓子屋さんはい多いのか？

和菓子屋さんが占める割合ってホントにイメージ通りの数字なのか？

裏…がほしい！

どうやって全体像を知ればいいのか？
やはり数字の裏付けが欲しくなり、一案として、電話帳（タウンページ）を引っ張り出してきました。でも和菓子店、菓子店、両方のカテゴリーに同じ店が並んでる場合もあり、どうやって調べたらいいのか。ネットでは調べられないか。メンバーの中からもう一つ「こうやって金沢について調べれば調べるほど、比較対象を知る必要があるのではないか」という声があがり、他県でもネットや全国の電話帳を片手に、例えば北陸三県で、例えばメ

ンバーの地の利のある他県・他地域でどうか？ を調べてみようということになりました。和菓子に対して、洋菓子といえば、大方の人が挙げる神戸では？ 北陸三県というエリアでは？ 金沢と比較してどうなんだろう。

大きな柱を「和菓子の包み紙」とし、小ネタとしてメンバーたちがそれぞれ「私の一押し小ネタ」があればおもしろいのではないか。「新聞の特集記事とミニコラム」のような展覧会構成につながるのではないか。

では小ネタを掘り起こしてみよう…メンバー一人一人に次回への宿題となりました。大きな柱では綿密に、そして小ネタでは「へえ～」とちょっとした驚き提供！ となればいいですね。

本当に「和菓子が一番多い」のか？

2007/07/22

何か数値として裏付けが欲しい！
本当に金沢には和菓子店が、お菓子屋さんの中で一番数が多いのか？

電話帳を調べてみることに…

その後ネット検索の方法も伝授され、メンバーがそれぞれ担当持ち場を決めて調べてみることにしました。



第6回ミーティング 7月25日

2007/07/29

暑中お見舞い申し上げます！

第6回ミーティングが開かれた場所は、写真をご覧になって分かるいらっしゃるでしょうか？ 今回はシアター 21 の楽屋を使っの会議となりました。鏡だらけで、そんなに広くないお部屋なのに、地下なのに何か開放感も感じる中で始まりました。

今まで集めた包み紙を業種別に見ていき、模様や色を柱にして分けていった前回までのミーティングを振り返ると、やはり「金沢の包み紙」のメインとしては「和菓子屋さんの包み紙」を考えていこう…と展覧会の「背骨」が決まりました。

前回の宿題、他の地方と比べてやっぱり金沢では和菓子屋さんって本当に多いのか？ についてはネット検索等を検討すると「金沢では和菓子屋が多いのは数値的に見



ても間違いはない」とまとまりました。

では、今までの収集状態で大丈夫なのか？ 和菓子の老舗をほとんど集めてきたのか？ 検討してみると、調査漏れがあったようで、追加収集の足の捜査がまだ足りな

かったようです。これは次回までに分担を決めてメンバーがまた街へ散っていきます。

また、今回「金沢21世紀美術館友の会」が企画から関わったことを生かし、メンバーがそれぞれ小ネタとして、「ここはこだわりたい」という小さなコラム的な内容を作

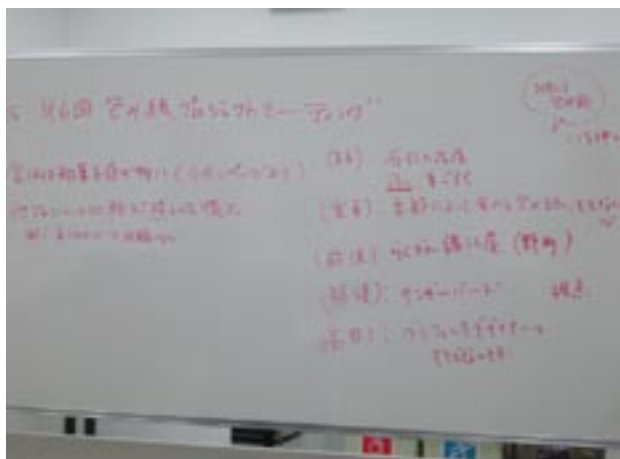
っていこう…と各自案を出しました。

小さくてもぴりりと、全体の味を締める薬味のような、また箸休めのような、そんな小ネタになれば…と頭を絞って、次回までにもっとまとめてくることになりました。

小ネタ

2007/07/29

現段階での友の会メンバーが考えている小ネタです
まだ案を出した段階なので、これから詰めていく中で変遷はあるかも…。



懇親会

2007/07/29

さてさて…夏がやってきました。

とはいってもこの日はちょっと涼しかったですが、夏といえばやっぱり暑気払い！ 美術館メンバー、友の会メ

ンバー、夏を乗り切るための鋭気を養おうと、懇親会の席ももちました。

これから正念場を迎え「チーム」としての気持ちがぐっと深まったように感じます。

第7回ミーティング 7月25日

2007/08/05

北陸地方の梅雨が明けたようです。

台風の接近に伴い、一気に夏の暑さが金沢を襲い連日体温並みの気温、フェーン現象も伴って熱風が吹いたり…。

金沢21世紀美術館では昨日から新しい企画展「パッション・コンプレックス：オルブライト=ノックス美術館コレクションより」が始まっています。

会議室1に集まった包み紙プロジェクトのメンバーの前にいよいよ「企画書」が提示され、今まで重ねてきたミーティングを展示に組み立てていく段階に入ってきました。交流課の広報担当落合さんから、今後この「金沢の包み紙展」がどういったPRのされ方、広報の展開を経ていくのかアクションプランが提示されました。

金沢のお店で集めてきた包み紙

その中でも「和菓子」という業種に絞ってメインに据えていく展覧会。そしてそのメインを支えながら脇を固める意味で、友の会メンバー一人一人が「ミニ特集」をコラム



的な意味合いで立てていく。

友の会メンバーも手探りで不安いっぱいながら、一番お客様の目線に近い位置にいるという部分を生かして「小粒でもぴりりと効いた」味を添えられるように、意気込みも新たにしました。

さて、今まで模様（柄）にポイントを置いて和菓子の包み紙を見ていましたが、色目についてはどうだろう。メンバーの一人が、パソコンを駆使して色の似た包み紙をまとめるという図を作っていました。じゃ、さっそくやってみようか。

金沢では、加賀友禅の作家さんには「加賀五彩」という色の考え方があるようなのですが、一つの参考資料としてそれを頭に置きながら、ちょっとやってみました。これがそのまんま当てはまるとは分かりませんが、ヒントとしてやってみると、赤（臙脂）と紫に何かが見つかりそう。そして最近和菓子の包み紙に多い黄色は、くすんだ黄土色とは別に最近使われ出してる明るい黄色があるような…そんな考えが一つ出てきました。

さらに「金沢といえばこのマーク」という「お約束」のよ



うにロゴになっている兼六園の琴柱灯籠、石川門、梅の紋（前田家の紋）も多い。金沢のイメージは、全国的にも「いいイメージ」で通ってるのでしょうか。よく使われていますね。

加賀五彩

2007/08/05

これが、このまま「和菓子の包み紙」に当てはまるかどうかは分かりませんが、一つの参考資料として。「加賀五彩」とはこういうものだ と提示していただきました。



紫と赤

2007/08/05

赤っぽい包み紙、紫色の包み紙、色によって分けていくと…。



お盆休みが始まり、金沢21世紀美術館（まるびい）の周囲にはぐると朝顔のつるが囲み、毎朝いろとりどりの花を咲かせています。

今日は土曜日の昼下がり、午後3時からミーティングが始まりました。

友の会メンバーが、一人一人「このお店の包み紙について調べてきた」というそれぞれの調査報告を行いました。

お店の店長さん自身の思い出あり、お店のトップの方すらも経緯がはっきりしないまま残ってきた包み紙あり、何種類もの図柄を考え考え試行錯誤を繰り返しながら、今のデザインに決めたという紆余曲折の経緯をすべて残してられるお店あり、デザイナーがコンセプトから関わったことが分かる包み紙あり、名のある画家に絵を頼んで出来た包み紙、加賀獅子舞に使われる布を思わせる図柄と色目の包み紙。お店の包み紙に対する考えもさまざま、この猛暑の中、調査に飛び回ったメンバーの思い出もひとしおです。

メインの「金沢の和菓子屋さんの包み紙」の展示のプランも実際に展示を担当するの方との話の詰めもまだこれからといったところで、まだはっきりと固まってはいな



いものの、簡単なラフデザインを提示されました。これがまた紆余曲折を経て実際の展覧会へと組み立てられていくことでしょう。私たちが今まではできあがった展覧会を見ることしか機会がなかったわけですから、一つ一つ勉強して吸収していきたいと思います。

展覧会期間中、レクチャーの企画もあり、今、講師の人选を始めたところ。まだどなたに決まるか分かりませんが、レクチャーの方も大勢のお客様に聞いていただきたいと思います。

かわいいお客様

2007/08/13

今回、ミーティングの席にはこんなかわいいお客様がいらっしゃいました。

こんな風に包み紙を使って小物を作られた方、ほかにもきつというらっしゃると思うのですが、お店の人自身が作られたそうです。

なんだかとても微笑ましいですね。

お店に対する愛情、生活の中での気持ちの余裕、ほっこりと豊かな気持ちになりました。



お盆休み、今年はひたすら暑かったですね～。
皆さん、暑さ負け、夏ばてされてないでしょうか？

このブログをお読みの方で、8/11～19の間に金沢21世紀美術館（まるびい）を訪れてくださった方は、どれぐらいいっしょにすごしたのでしょうか。一日の入館者数が10,000人前後だった日もあり、連日7,000人、8,000人という毎日。そんな賑やかだった「まるびい」は、今日は一転静かな落ち着いた姿です。しかし…金沢の包み紙プロジェクトは、逆に今から一番目まぐるしい時期に突入していくわけです。

今日のミーティングでは、実際の展示案が前回に話があった立体展示案から変更されて床面に包み紙を敷き詰める平面展示へととなりました。これは実際に展示を手がける展示デザイナーの武松さんと、美術館側の高橋さんが相談して検討し直して、訪れる人に「包み紙に包まれる気持ちになってもらおう」と考えて決まっていたそうです。床面に包み紙を敷き詰めるって、じゃあお客様はどこを歩けばいいんだろう？ それは、実際の展示ができあがったときの楽しみに、ちょっと内緒にしておきます（笑）。

壁面には、まず「包み紙って、どんな変遷をたどってきたんだろう」と、高橋さんがメインになっての「包み紙のあゆみ（歴史）」そして、今回の展覧会にずっと関わった友の会メンバー5人、一人一つのお店の包み紙に絞って、個人的に取材に回った成果をまとめたものを、キャプションと包み紙で構成される展示。

今日のミーティングでは、この個人テーマの部分を調査に回った友の会メンバーと、秋元館長を交えた美術館スタッフとで推敲を重ねていきました。思いがあふれるけ



れど、展示をしてお客様に見てもらえるものにするというところ、一つ一つが新鮮かつとっても難しい。そして、どこかにもなる部分、これが「企画に関わる」ことの苦しみでもあり、楽しみでもあり、醍醐味であるのだろーと思いました。

チラシに載せる各メンバーのコメントも「友の会メンバーが展覧会に関わった」ことをより際立たせる内容になるようにと、変更となりました。日程的にかなりきつくて、正直、「も～やだ！」と根を上げそうになったけど、でも仲間がいるから乗り切れるってことも、新たに学んだと思います。

以前、友の会メンバーがワークショップの企画を考えたこともありましたが、それは「考えさせてもらった」ことで満足でした。でも、今回は「企画に関わる仲間」として考えて組まれたこと。入る方も受け入れる方もどっちもしんどいけれど、でも私個人的に思うに、これはものすごく大きなコトではないかしら？って今、この文章を書きながら、ちょっと武者震いしてます（大げさ？）。でも肩の力入れまくっても焦っちゃいますから、ここは話し合いを重ねて理解を深めながら学んでいきたいです。

チラシができた～!!

2007/09/01

いよいよ9月

長かった、熱かった、暑かった8月が終わりました。金沢21世紀美術館（「まるびい」）をぐるりと取り囲んだ朝顔の花も少しずつ葉っぱが茶色くなり始めたり、種が見えたりしてきました。

さて、9月14日からの展示を目指して、ついについにチラシができあがりました～!! ついにヴェールを脱いだ！（って大げさですけど）「金沢の包み紙」展のチラシは、表面が「かなざわ」と聞いて大勢の人の脳裏に浮かぶ模様を全面にちりばめた、「包み紙」のような感じ。裏面は



それぞれプロジェクトメンバーの自己紹介、皆さんに向けてのメッセージが各自の言葉でつづられています。どうぞ表も裏もじっくり見てやってくださいね！！

私自身がぱっと表を見ての第一印象は「あ、手紙が写真を包んで誰かに送ってもいいな～」でした。皆さんはいかがでしょう。これからPR活動です。どうか皆様よろしくお願ひしま～す！！

よろしくお願ひしま～す！

2007/09/02

金沢21世紀美術館（まるびい）の館内のあちこちに、チラシが置かれています。

評判は上々！（うれしいな！）

たちまち枚数が減っていったるそうです。

チラシを手にした皆様、ぜひ14日からの展覧会にお越しくださいね！！

チラシを手にした皆様、ぜひぜひ他の皆様にPRよろしくお願ひします！



第10回 ミーティング 9月8日

2007/09/11

「包み紙プロジェクト」のミーティングもついに10回目。会議室1の壁面の朝顔の葉、黄色くなり始めてるのも多くなり、花の数も減ってきています。まだまだ残暑は厳しいですが、空や雲を見ていると秋、そしてセミの声から秋の虫の音に変わっていますね。

今回は、展覧会会期中に行われるトークイベントやこのプロジェクトの担当学芸員のレクチャーの計画が説明されました。

トークイベントでは、雑誌『装苑』を中心に幅広く活動されているスタイリストの大森ようこさんをお招きし、スタイリストの視点から包み紙の魅力を語っていただきます。この他にも大森さんが今までの仕事を写真や映像で紹介していただく予定です。とってもスペシャルな会になること間違いなしです！！

一方変わって、学芸員さんのレクチャーでは、江戸時代末期から始まる包み紙（グラフィック）の歴史を学術的な面からたどっていきます。



2つとも違った方面から包み紙を見つめるレクチャーです。皆様のご参加をお待ちしております。

展示では私たち友の会のプロジェクトメンバーによる個人テーマ、キャプションや文章、そしてそれにつけられる英文もあります。そう、今回英文訳もちゃんとしています。包み紙って外国の方にとってはとても新鮮だと

思うのです。「なんだろうな〜」と思って興味を持たれてじっくり読んでくださるといいな〜。

デザインギャラリーはガラス張りの展示室で、ともすれば外から眺めて…になりがちなのも多いのですが、今回の展覧会、中に入って、あららびっくり！ となるような感じです。どうぞお楽しみに、もう少しお待ちくださいね。

一方、まだ展覧会は開いていないのですが、ここまでの活動を振り返ろうということで、今回は展覧会オープンから2週間後に、ミーティングをもつことになりました。金沢21世紀美術館では他にも「クルーズ・クルー」などボランティア活動が幾つか行われています。今回の

友の会会員の「包み紙展」への関わり方も、他のボランティア活動をされている皆さんや、友の会会員の皆さんが大きな関心を寄せてくださっています。

私たちもまた他のボランティア活動の話も聞きたい。互いに交流を深めたい。そのためにも今回の活動をきちんと検証してまとめる必要がありますね。

活動終わった、やれうれし！ だけではなく、もっと深めていって次に続くものとしてまとめたい。そこまでやっつの「プロジェクト参加」だと思いました。

さあ、これからはカウントダウンです（ドキドキ）

無題

2007/09/13

いよいよ展覧会前日の朝。今日は9月13日、木曜日
いよいよ「金沢の包み紙」展が、明日14日よりオープンします。

金沢21世紀美術館のHPトップページをご覧になれましたか？「金沢の包み紙」展のチラシがバナーになって、「金沢の包み紙」展公式HPがアップされています。

<http://www.kanazawa21.jp/designgallery/tsutsumigamiproject>

前回にもお知らせしたとおり、関連レクチャーとして9月30日（日）14時から、学芸員の高橋さんのレクチャー。10月13日（土）14時半からは、スタイリスト大森ようこさんのトークが行われます。こちらをあわせて皆さんお誘い合わせの上お越しくださいね！

9月9日（日）リカちゃんの展示が大盛況のうちに無事終了、展示室の照明が落とされました。そして10日から撤去作業、そして「金沢の包み紙」展に向けての設営作業が始まりました。

11日、床面の準備が始まりました。

12日、いよいよ展示物である包み紙が…配置されていきます。デザインギャラリーはガラス張り。

お客様が足を止めてガラス壁面越しに興味津々で見つめていらっしゃる。2人、3人と集まられて「あ、知ってる、〇〇屋さんの包装紙じゃない？」「へえ、素敵ねえ」「あら〜旅行できたんだけど、もう帰ってしまうのよ、ざんね〜ん」「いつから？（とチラシを持って）へえ、始まったらまた来てみよう」

そんな声が聞こえてきました。

私たち友の会プロジェクトメンバーも、それぞれの仕事



の合間に足を運んで展示作業を見守っています。

今まで、できあがった展覧会を楽しんでいた私たち友の会会員も、今回自分たちが企画から携わった展覧会、こんなに新鮮なのかと改めて思いました。

作業途中しか見られなかった遠来のお客様、展覧会がオープンしたらいろいろまたアップしていきますので、乞うご期待！！

9月14日 ついに初日！！ お客様の入りはどうかしら？
お客様はどういう感想をお持ちかしら？

思えば、まだ朝顔のつるが腰の高さまでいってなかった6月ごろから始まったこのプロジェクト。ミーティングは10回を数えました。友の会会員のプロジェクトメンバーは5人ですが、もちろん友の会会員の方にもたくさんのエールをいただき、支えられてきました。

包み紙を提供していただいたお店の方、取材に快く応じてくださった老舗の社長さん、店長さん、家でとっておいた包み紙をたくさん美術館に持ってきてくださった市民の方、英語訳を引き受けてくださった方、包み紙をデザインしたデザイナーさん、大勢の市民の皆さんに支えられた「金沢の包み紙」展

そして…今、「市民の方」と書きましたが、「金沢」って「金沢市民」って「金沢市在住の人」という意味だけではないのだ…と強く思ったのは…このブログです。このブログを始めとして、ネットで知って関心を寄せてくださった全国の「金沢21世紀美術館（まるびい）ファン」皆さんがいたからこそ…今日、こうやって初日を迎えることができました。

今はもう朝顔も「まるびい」の天井を越えてつるを伸ばし、絡み合ってたくさんの花を咲かせています。3ヶ月…長いようで短いようで…でも、ほんとに！ 熱かった3ヶ月でした

お陰様で大勢のお客様が、デザインギャラリーにいらっしゃってくださいましたようです。文字が多いので、どうなのかなあとちょっと心配だったのですが、じっくり読んでくださる方が多いとか。その包み紙に関してのお客様



ご自身の思い出を語り合ったり、楽しんで展示室で過ごしてくださってるようです。うれしいです。

取材も入っていて、いずれテレビ画面でも見れるのかも。ちょっとくすぐったいような、恥ずかしいような…です。

そして…私たち5人に辛抱強くつき合ってください、時に丁々発止、時に喧々諤々、ああでもない、こうでもない、ああしよう、こうしたいに真剣に向き合って「仲間」として、この展覧会を作り上げていった「金沢21世紀美術館」の学芸員さん、スタッフ、交流課の方、そして秋元館長。

私たち友の会会員ですからこの美術館のファンです。でも、もっともっとファンになりました。

無事初日を迎えることができ、皆さん、本当にありがとうございます。そして最終日まで大勢の方に楽しんでいただけるよう、見守ってまいります。

メディアにも取り上げて頂きました！

2007/09/19

幾つかテレビ、新聞などのメディアに取り上げていただきました。

友の会会員プロジェクトメンバーへのインタビュー取材もありました。恥ずかしかったけど、でも改めて「外へ向けて発信される」意味もまた考えるようになりました。

オープニング後すぐに三連休があったこともあり、連日大勢の方がデザインギャラリーに足を運んでくださっています。美術館自体も連日大勢のお客様で賑わいました。「包み紙」にそれぞれ思い出を語られる方、「図録はないの？」と現場の者に尋ねられる方、じっくり読んでメモをとられる方、感想をご自分のブログに書き留められた方、外国人の方も興味深く足を止めて見てくださって



ます。よかった！

温かいエール、そして有意義なご意見、これからを考えてのご提言やご批評など、様々なご意見を寄せていただき、皆さんが関心もって来てくださっていることを改め

て実感します。

「展覧会が無事オープンしました、よかったね」だけで終わるのではなく、今後に向けてのきっちりとした振り返りミーティングも持つことになっています。

「包み紙」を一冊の本に!!

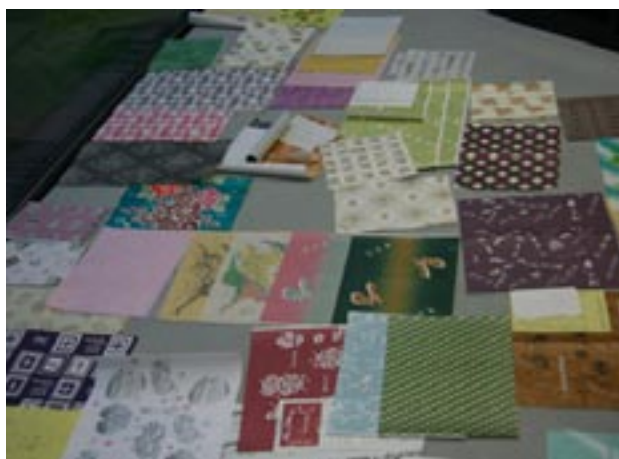
2007/09/23

大好評をいただき、大勢の方に足を運んでいただいている「金沢の包み紙」展。皆様ありがとうございます。

これもそもそもは、私たち「友の会会員プロジェクトメンバー」の拙い説明や、美術館側の呼びかけに快く応じて、包み紙を提供してくださった、金沢市内のたくさんのお店の方のご協力、そして大切にとっておいた包み紙を提供してくださった市民の方のご協力があってこそできあがった展覧会です。

ところがご存知の通り、デザインギャラリーはとても小さな展示室です。限られたスペースの中、提供していただいたすべての包み紙を展示することはできませんでした。しかし、せっかく提供していただいた方々への感謝の気持ちは、何よりも展覧会会場で表すことが一番大切ではないか…と私たちも考えていました。そこで10月6日頃、ちょうど「開館三周年記念ウィーク」の頃から、今回展示できなかった包み紙を一冊の本にして展示することとなりました。

初日から展示できなかったことは私たちの力不足なのですが、開館三周年記念プロジェクトでもある、この「金沢の包み紙」展。開館記念日にあわせてもっと大勢の方



に見ていただけるものと思っています。

9月30日には、この展覧会のキュレーター高橋律子さんによる「包装紙のモダニズム」と題したレクチャー、そして10月13日にはスタイリストの大森ようこさんによるトークイベント「スタイリストが見た包み紙」が行われます。

10月21日まで、一度ならず二度三度と新たな思いで展覧会に足を運んでいただければとてもうれしいです。

「金沢の包み紙展」関連レクチャー

2007/09/30

連日好評をいただいています「金沢の包み紙展」、オープニングから無事2週間を迎えました。

本日、この展覧会の担当キュレーター、高橋律子さんによるレクチャーが行われます。どなたでも無料で参加できます。日頃なにげなく見ている包み紙も実は江戸末期から始まり、単なる包む紙から、お店独自のデザインへと変化していきました。デザインという観点からの包み紙を見つめていくとどんなことが分かるのでしょうか。

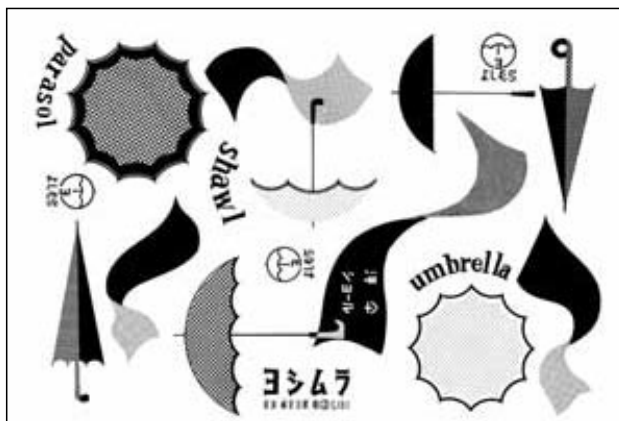
【包装紙のモダニズム：大衆化されるグラフィックデザイン】

日時：9月30日（日）14：00～15：30

会場：レクチャーホール

講師：交流課キュレーター 高橋律子

定員：80名



参加費：無料

展覧会チケットも必要ありません

9月30日、「金沢の包み紙」展担当キュレーターの高橋さんのレクチャーがありました。

江戸後期の引紙から始まったとされる包み紙。グラフィック・デザインという視点でまとめられたものは、どうやらなかなかないようです。最初はアール・ヌーヴォーなど外国のデザインをそのまま写して勉強からはじまり、商業美術としてのデザインがだんだん考えられるようになったようです。最初はちょうど年末年始に企業や映画会社が出す宣伝用のカレンダーやポスターみたいな、美人画に店名を入れてといった感じ。商品を包む紙という意味とはちょっと違ってるかな。そこからだんだんお店の商品を紙に全部ちりばめて…といった商品カタログを兼ね始め、全方向性のデザインを考えるようになり、「包む」ということが意識されてきたようです。大正期から今も使われてるカルピスの水玉模様、新聞広告に映える必要性が出て包み紙に力を入れた花王石鹸などは、シンボルとして包み紙を考えるように。その後お店のロゴをちりばめる動く広告として高度経済成長期に大きく開花し、そしてそれが去った後の現在の包み紙の生き残り方について…「失われつつあることによって、一つ一つ個性的になっていく」という言葉が印象的でした。

さて、その後プロジェクトメンバーが残って、これまでの活動の振り返り会に。大きく分けて二点だと思います。一点目は開館三周年記念ということで、美術館の友の会メンバーが企画に加わったことに対しての一人一人の考え方。特にグラフィック・デザインそのものに携わってられる方から見た「その対象が包み紙とは最初驚いた。しかし改めて考え直す良い機会で新鮮だった」という言葉が私には一番印象的でした。二点目。秋元館長がさまざまところで語ってられる「美術館にとって大切なのは、アーカイブ（記録文書）をきち



んと残していくこと」。

この視点では反省点が挙がりました。

お店に包み紙を提供依頼にメンバーが足の捜査で金沢の街を歩きましたが、その際、やはり事後でいいからきちんとした記録を残しておくべきだった。その際にお店の人とやりとりした言葉、伺ったことなどを記憶が残っているうちにメモでいいから残し、一つ一つ文書でまとめておけばよかったかと。

また今回お店の方の協力がなければできなかった展覧会ですが、会場スペースの問題でどうしても「集めておきながら、その包み紙を結局展示できなかった」場合があり、それは提供していただいた以上、何かの形で会場ですべてを展示する必要があったのではないかと。その対応として、包み紙すべてをB4サイズにカットしそのまま綴じた「資料集」（本の形式）を作成し、開館三周年ウィークの始まる6日に間に合わせて会場内で展示する。

「資料集」は無事完成し、10月6日から展覧会会場に置いてあります。これは現在展示中の包み紙は入っていないので、いずれ展覧会が終わったらそれら全てを綴じ込んだ「記録集」として完成させる予定です。

資料集ができました！

2007/10/08

今回「金沢の包み紙」展のために市民の方や、お店の方から提供していただいた包み紙、展覧会に展示しきれなかった包み紙をB4サイズの本の形にまとめた「資料集」。

会場に小さな白い台が置かれているのを気付かれた方も多いと思いますが、そこに10月6日より、「資料集」を置いて、お客様に自由に見て頂いております。

展覧会初日から置くことができなくて、提供していただいた包み紙、会場ではどんなふうになっているのかしら？と楽しみにされていた方、遅くなってしまっておめんなさい。



包み紙をそのまま本の形に綴じ込んだものです。どうぞ
ゆっくりご覧になってください。
お気づきの通り現在展示中の包み紙は、この資料集には

入っていません。展覧会が終了した後、プロジェクトの
様子とまとめて「記録集」として完成させる予定です。
お楽しみに。

資料集の中をちょっと紹介

2007/10/08

包み紙そのままを綴じ込んでいます。



関連トークイベント開催のお知らせ

2007/10/08

いよいよ今週末の13日、14：30から金沢21世紀美術館
レクチャーホールにて
「金沢の包み紙展」関連トークイベント
【大森ようこが語るースタイリストがみた包み紙の魅力ー】
が開催されます。

大森ようこさんとは、かつて少女たちのバイブル的存在
だった雑誌『オリーブ』での活動開始後、現在は、雑誌『装
苑』での活動を中心にさまざまな雑誌やCMでスタイリン
グを手がけている、今大注目のスタイリストさんです。

特に、皆川明氏による人気ファッションブランド「mina
perhonen（ミナペルホネン）」のスタイリングや、アーテ
ィストYUKIさんとアートディレクターの平野文子さんの3
人で結成した「夢想集団“sleep”」での活動は若い女性に

絶大な支持を得ています。乙女心をきゅっとつかんで離さ
ない独自のスタイリングは、これからも私たちを魅了し続
けていくに違いありません！

本レクチャーでは、そんな大森ようこさんをお招きして、
スタイリストとしての視点からみた包み紙の魅力や日常
の中に隠れている小さな幸せをどう感じ、暮らしの中に
取り込み、楽しむことができるかなど、大森さんの言葉
でお聞かせいただきます。

そして、mina perhonenやSLEEPでの作品はもちろん、今
まで大森さんがなさってきたお仕事も、スライドショー
や映像を使ってご紹介いただく予定です。

大森さんファンの方はもちろん、特に女性の方々にご参

加いたきたいトークイベントです。またとないこの機会に、たくさんの方のご来場をお待ちしております。

また、当日は大森さんが雑誌『装苑』で連載されていた「大森よう子の気になる服」をまとめて一冊の本にした『for a girl』も会場で販売します。現在はミュージアムショップでも販売中です。

「金沢の包み紙展」関連トークイベント

【大森ようこが語るースタイリストがみた包み紙の魅力】

■日時：2007年10月13日（土）14：30～16：00

■講師：大森ようこ（スタイリスト）

■会場：金沢21世紀美術館 レクチャーホール

■定員：80名（当日10：00～会場前にて入場整理券を配布します）

大盛況でした！大森ようこさんトークイベント

2007/10/16



オドロキでした。朝10時整理券配布開始。10～15分であっという間に全数はけてしまいました。美術館が開場される9時ごろから列ができたそうです。

せっかく美術館まで足を運んでいただいたのに、このような状況で整理券を手に入れられなかった方、その後担当者の尽力によりなんとかモニターでレクチャーホール裏のスペースでご覧いただけるよう、トーク開始にはなんとか間に合ったのですが、こちらの不手際でその告知がすぐにはできなかったために情報が行き渡らず、あきらめてお帰りになった方も多と思います。本当に申し訳ありません。せめてブログで、言葉を尽くしてトークイベントの様子や内容をお伝えできれば…と思います。

イベント開始に先立ち、大森ようこさんはゆっくりと一人で展覧会会場を回ってられました。白い儚いようなふわとしたドレス姿で、素材はなんだろう毛糸？かな？というお帽子。後でトークイベントの中でお話がありましたが、ご自分で耳の回りの部分などを縫ってご自分に合わせて一手間加えられた帽子だそうです。

しゃべり方もゆっくりで、どこかはかなさが漂うような、ふわふわとした感じ。実はこのブログを書いている私（た

む）は、正直申しますがファッション関係に疎く過ぎてきてまして、スタイリストさんというと、女優の夏木マリさんみたいなイメージを持っていたので、そのギャップに驚いていました。

ところが話し方から受けるイメージとは違って、話の中身は随所に「大森ようこさんのこだわり」が伝わってくるもので、一本芯が通っていてそれを曲げない強さを感じました。

六本木というとアートトライアングルが最近脚光を浴びてますが、エネルギーでファッションの中心、機能的で自由あふれる街というイメージです。その六本木で生活されているそうなのですが、お住まいそのものはとても古いアパートで、「不自由そのもの」だそうです。すき間テープを毎冬貼らなくちゃならないとか、あちこち不便なんだそうです。その不自由さを愛して、その不自由さが自分にとって必要不可欠だとおっしゃってました。

このお家の話が冒頭にあったんですけど、「こりゃかなりこだわりのある人なんだなあ」という印象がひしひしと伝わりました。

（続く）

今回「金沢の包み紙展」関連イベントということで、最初の方に「包み紙」と絡めたお話が続きました。

雑誌の企画で「パッケージ」特集があったときの話では、先にこの展覧会のキュレーター高橋さんのレクチャー（9月30日）の中にもあった「カルピス」の包み紙をアレンジした紙面を作られたそうです。これは現在金沢21世紀美術館の企画展「パッション・コンプレックス：オルブライト・ノックス美術館展」のポスターの監修などに携わられた菊地さんと組んでのお仕事だったそうです。カルピスの包み紙、水玉模様のとてもシンプルなデザインですが、この水玉の間隔がカルピス社の登録商標だそうで、その使い方にはとても気を使ったそうです。



大森ようこさんのこだわり…例えばカラーコピーをよく使うのだそうですが「女の子にはやっぱりクッキーよりビスケット」とおっしゃって、ビスケットをそのままコピー機に並べて、メーカーさんをビックリさせたとか。リボンやお花もつぶしてそれをカラーコピーにかけるともよくされるそうです。

「かわいい」に対しても「かわいいものを重ねて重ね尽くしてもいいんじゃないか」と頭の先からつま先までかわいいものづくり。でもそこは「色に気を使ったり」して「曲げないところ」は曲げない。着物に対しても長襦袢を見せたり靴と合わせたりして「着物」の世界の掟破りは大胆に、でも「下品」にならない一線は守る。そういう話を聞いていくと「芯のぶれない強さ、したたかさ」を感じます。

日本の家紋に興味があって、自分でストーリーを考えて「このウサギはきっとこんなシチュエーションに陥って、こんな気持ちで」などと深読みするのが大好きなんだそうです。家紋を使ったスタイリングもなさったことがあるそうです。

スタイリングは「借りてきて、スタイリングして、返す」

までが仕事と語られてご自分でデザインして手を入れられることがあっても、手縫いで後で元のかたちにして返すものだ。また、モデルさんに対してはこだわりがあって、「自分が作るページには読者の手を止めたい。だからモデルはまず顔です」とおっしゃってました。

ソフトで柔らかい語り口なのですが、随所に「こだわり」が伝わってくる。曲げないということはとても難しいこと。一步間違えば独りよがりの誰にも通じないものになってしまう恐れだってあるはず。その見極めがきちんとあるからこそ、これだけ大勢の人たちの支持を得てるのだなぁと唸らせられました。

こうやってあつという間に時間がたっていました。ただファッション業界の人しか分からない用語とかそんなものは全くなく、ホント女性が聞いてごく自然に染みこんでいく話でした。最後は大勢のお客様が残ってサイン会が続いていきました。

以上、非常に雑ばくなまとめ方（まとめにもなってませんが）でごめんなさい。少しでも大森ようこさんの魅力が伝わっていればうれしいです。

ラスト・ウィーク

2007/10/19

「金沢の包み紙」展、連日ご好評をいただいておりますが、いよいよ残すところ、本日を入れてあと3日間となりました。

10月14日（月）付北陸中日新聞にかなり大きく掲載された記事をご紹介します。

この展覧会をきっかけに、お客様の中には、改めて家の中を探してみられて「結構包み紙とってあった」とか「こ

の紙のお店どこにあるの？」とかいろんな発見があったり、話題を呼んだり、いろいろ見直された方もいらしたり、私たちが思った以上に皆様の間で話題にしてくださっているようです。

私たちは友の会メンバーですから、金沢21世紀美術館にはこのプロジェクトがあってもなくてもそれなりに足を運んでいます。現代アートの作品をずっと見ていて「展覧会は生き物」とよく思っていました。

今回は新しく包み紙をデザインしたわけでもなく、元からあるものを探して見つけてお借りしてという働きかけをしたにすぎないです。(あ、だからスタイリストさんの話がよく分かったのか〜と今ごろ思う私)

でも、自分たちが最初から関わった展覧会。展覧会が始まってしまえば一段落だ…と学芸員さんは言われましたが、友の会プロジェクトメンバーそれぞれどう感じたでしょう。

今、このブログを書いている私…自身は、「展覧会が始まってから」改めて「展覧会は生き物」という印象をいっそう強く感じました。紙や展示は動かないのに、そこに人が入って見て回ってられることで、何か変わっていく…エネルギーを感じました。

他のメンバーの皆さんはいかがでしょう？



明後日新聞に大森ようこさんの記事発見

2007/10/22

現在金沢21世紀美術館では、日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式が開催され、「明後日朝顔プロジェクト21」などさまざまな展示や活動が行われています。このプロジェクトでは、毎週「明後日新聞」を発行しています。朝顔の様子のみならず、金沢21世紀美術館で行われるイベントにも特派員さんが来られて、取材して新聞に載せています。

私(たむ)は、先日友の会会員限定の「夕暮れおしゃべりツアー」に参加してきました。今回は「日比野展」メインのおしゃべりツアーで、長期インスタレーションにある印刷機からちょうど最新号がプリントアウトされてくるところを新聞製作のメンバーさんから説明をしていただきながら、見守っていると…

ちょうど10月20日発行号に「大森ようこさんのトークイベント」の記事が載っていました。大森ようこさんが以前から興味を持たれている日本の家紋。その中に朝顔があったのを、さすが特派員の皆様、見逃しませんでしたね！

先日、私の方でご紹介した内容と比べてみるとなかなか興味深いです。ぜひあわせて読んでみてください。

明後日新聞は毎週発行されていて、1部50円限定200部を美術館内のミュージアムショップで販売しています。日比野克彦アートプロジェクトのボランティアさんのねばり強さ、ご苦労に心よりエールを送りたいです。同じ美術館でそれぞれのプロジェクトに取り組んでいる仲間同士ですもんね！



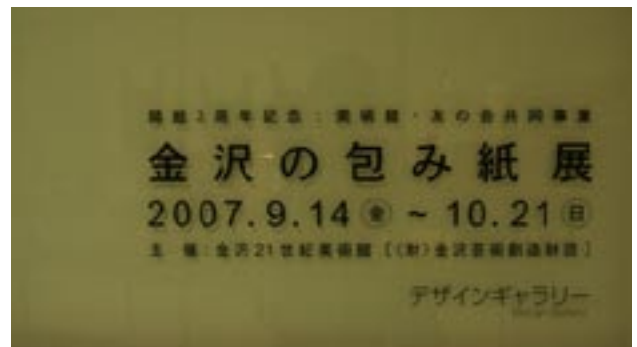
10月21日 日曜日 午後6時、デザインギャラリーの扉が閉まり「金沢の包み紙」展は無事会期を終了しました。最終日まで大勢の人でにぎわい、思った以上に評判を呼び、メディアにも取り上げていただき、たくさんの人に支えられ大盛況のうちに終わりました。

私は午後6時半近くに展示室前にいました。すでに照明は落とされ、展示室前のミュージアムショップも閉まりました。お客様も途絶え、静かな「まるびい」です。ちょうど上弦の月（半月）がとても美しい夜でした。

6月から始まった包み紙プロジェクト。調査や収集から始まり実際に包み紙を持って床に並べて「金沢らしさとは?」「どうやって展示したらいい?」「この包み紙に感じる〈これ〉は何だろう、どう言葉にしたらいいんだろう?」と考えながら手と身体を使って方向性を探ったミーティングを通じて、「企画する」ことを学ぶことができた。

今回、開館3周年記念ということで友の会会員との共同事業として始まったプロジェクト。この活動で改めて「金沢21世紀美術館の友の会っていいな。金沢21世紀美術館っていいな。金沢っていいな」という思いを大勢の人と共有できたことが…大きな財産となって残っていつてくれることを信じられる。

展覧会は終わりましたが、実はまだ「王手」というところ。まだ最後の一手が残っています。私の大好きな野球の試合でいえば、やっと9回裏ツーアウトランナー無しで「あと一人!」コールが始まるどころ。これから記録集を整理し、展覧会会場に置いた「資料集（集めた包み紙を綴じ込んだ本）」の完全版のためにまだ少し作業がまだ残っています。まだ最後の一手を詰めるまでプロジェクトは終わりではありませんが、デザインギャラリーから包み紙

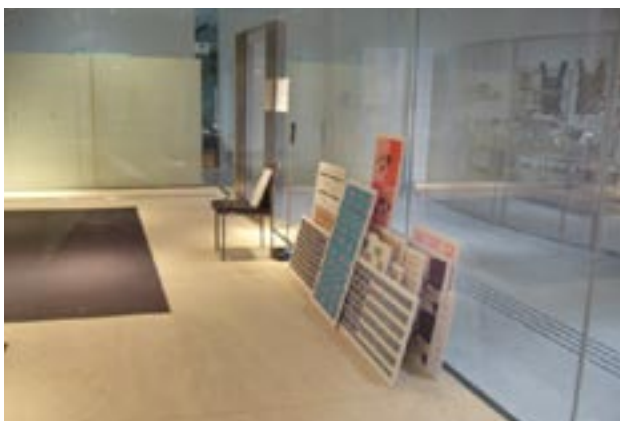


が引き上げられたのをもって、いったん一つの区切りとしたいと思います。

まだこのブログは続きますが、今までのご愛読ありがとうございました。思いのまま勝手気ままに書いて後からいろいろ訂正を入れたりご迷惑をおかけしたこともありますが、展覧会会場でお客さんから「ブログ読んでますよ」とお声がけいただいたり、訪れた方がご自身のブログにリンクを貼ってくださったり、皆様にかわいがっていただきました。

この場をお借りして、心より感謝いたします。

床の包み紙が全部片づけられ、壁のパネルも外されて一箇



所に集められていました。しばらくお休みなさい。お疲れ様。



「金沢の包み紙」展の展覧会は終わりましたが、プロジェクトはまだ「ジ・エンド」を迎えていません。

美術館の役割として「アーカイブ」、つまり文書記録として資料保存することがあります。そのためのミーティングを11月17日行いました。プロジェクトメンバーのみんなが久しぶりに一堂に集まりました。

展覧会としてはデザインギャラリーに展示してお客様にご覧いただいたもの…ですが、そこへ行き着くまでの過程をまとめる必要があります。もちろん今までも議事録、このブログでメンバー間のみならず、ネットを通じて経緯をお伝えしてきました。しかし、一冊の記録集として美術館に保存するものとするためには、まだまだいろいろ詰めていかねばならないということで話し合いを持ちました。

ミーティング記録は議事録としてまとまっていますが、このプロジェクトは議事録だけではまだ不十分なのです。各メンバーがお店を巡って包み紙を集めてきたときの細々した、その人だけが聞いてきた話、お店の人とのやりとり、失敗談、発見談などを「エピソードを洗い出そう」ということで各自が記憶をたどったり、メモをたどってみようということになりました。



抱えてるお話を洗いざらい思い出してみよう…思えばまだ梅雨が始まるか始まらないか？ という時期から集まって話し合いを重ねてきました。暑い熱い今年の夏の間は、それぞれが、それこそ決死の覚悟（大げさかな？）でお店に飛び込んでって包み紙を集めたり、お店の人に取材を申込み、話を聞いてきました。一人一人がたくさんの「物語」を抱えているはずです。

編集の問題もありますから、全部は載せられないかもしれませんが、それでもこうやって友の会メンバーが活動した記録として、新しい第一歩になる「記録集」となればいいなと願っています。

「記録集」に向けて：議事録をたどりながら

2007/12/23

Merry Christmas ! !

早い、早い、今年もあつという間に残り少なくなりました。「師走」…「先生が走る」だけでなく、誰もかれもが走ってる状態で、ログアップがままならず遅くなってしまうしました。

12月15日（土）記録集作成に向けての2回目のミーティングをもちました。前回で「各自、取材時のエピソードを挙げてみよう」ということでメンバーがざっと書きだしたものを元に「どれに絞り込むか」を話し合いました。さらに今までの議事録をたどり、この「金沢の包み紙プロジェクト」がどのような足取りをたどって展覧会にまで「こぎ着けた」のかをおさらいしていききました。

おさらいしていくと、第1回、2回、3回…と数を重ねてきたミーティングも、幾つかのブロックに分かれて段階を踏んできていることが分かる。小説などでいう「起承転結」みたいな、いわゆる「章」（セクション）に分かれ

ているなあと…改めてざっと一覧表にしてみると分かってくることがありますね。

自分たちが最初から関わったことは、ともすれば主観的に見ているけれど、改めて客観的にたどるとすごく新鮮だなと感じます。素人だけど「チーム」になればここまでできるんだなあと（なんかのドラマみたいですが）…改めて驚いたり、達成感を感じてみたり。

大体年内中に各自のエピソードをまとめること、これまでの議事録をたどって大枠で一覧して分かるようなものにセクション分けすることなど担当作業を決めていきました。

自分たちが関わりながら記録を残しまとめるという作業はすごく客観性を要求されるので新しい難しさも加わる。記録はやがて「次の企画」への資料となる。大切なステップだと改めて感じました。

謹賀新年

2008年が明けました。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

金沢21世紀美術館も2日、3日と特別臨時開館、そして4日（金）から通常通りとなりました。2007年6月からプロジェクト活動を開始した「金沢の包み紙」展も新しい年を迎え、記録集に向けてのまとめ作業も年末年始を挟んでいよいよ本格的に作業が始まろうとしています。

4日から平常通り開いたアートライブラリーに行ってきました。「金沢の包み紙展」資料集が置かれているのを発見!! 展覧会期間中に資料集をご覧いただけなかった方、展覧会のことを会期が終わってからお知りになった方、会期の記憶をたどりたい方、皆様是非ご覧ください。

アートライブラリーは、赤、黄、紫、黄緑などとてもカラフルなスワンチェアが目印。雑誌コーナーを抜けて書架の部屋へ入ると背の高い書架が幾つか並んでいます。

その背の高い書架の一番奥、円形デスクのすぐ側の「金沢21世紀美術館」の開設準備資料、展覧会図録、ミュージアム・クルーズ活動記録集、友の会活動記録集、研究紀要などのコーナーに「金沢の包み紙展資料集」があります。

どうぞお手にとってご覧くださいませ。



記録集進捗状況

2008/01/31

1月26日 土曜日、久しぶりにプロジェクトメンバーが顔を合わせました。記録集に載せるメンバー一人一人のお店取材時のエピソードの内容の絞り込みを行いました。

記録集には展覧会会場でお客様に見て頂いた内容プラス、ミーティングの中で出てきた、メンバー作成の分析シートや「金沢らしい模様や色とは何だろう」と話し合いを重ねた中から出てきたパターン解析図なども盛り込んでいくことになりました。

「展覧会の素材となる包み紙を集める」から「展覧会として内容を詰めていく」過程で試行錯誤を繰り返し話し合いを重ねていった過程を「記録」として残す。私自身は秋

元館長がどこかで語っておられた「アーカイブとして残すことも美術館としての役割の一つ」という言葉を改めて反すうしています。こういうことなんだなあ…実感として理解できるような気がします。

議事録を要約したものをずらりと並べると、何か年表のような、何か「章」（セクション）として分けられるのではないかと…ブロック分けのようなことをしてみてもどうかということになりました。

展覧会が終わって3ヶ月ほどになりますが、いまだに「包み紙展」についてお問い合わせがあるそうです。「金沢21

世紀美術館で2007年、お店の包み紙について展覧会をされたが、何か資料として読めるものはないか」などと…今まで「包み紙」そのものに焦点を集めて何かまとまった

企画をしたことは、あれが初めてだったのではないか。これから出る記録集の持つ「資料としての重要性」も期待されていると感じました。改めて責任も感じます。

「まるびい・オン・ザ・ラジオ」にレクチャーがアップされています!!

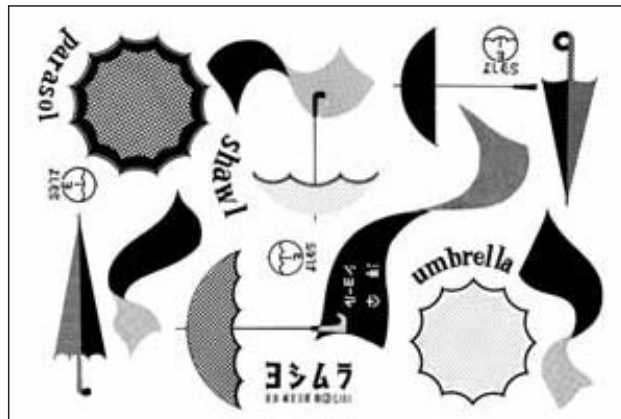
2008/02/03

さて、皆さんは「金沢21世紀美術館」のHPをご覧になることは、当然少なからずあると思います！

昨年10月、開館3周年記念の週から、このHPの右下部分になかなか素敵な写真のバナーが加わったのをご存知でしょうか？ これは金沢21世紀美術館でも人気の高い作品「スイミング・プール」の光庭（外）の部分から写した日没ごろの写真ですね。「残照」というのでしょうか。私個人的にも一番好きな時間帯です。このブルー基調のバナーをクリックしてみてください。

これが金沢21世紀美術館ポッドキャスト（インターネットラジオ）「まるびい・オン・ザ・ラジオ」（MARUBION THE RADIO）です。インターネットラジオ…私なぞはかなり利用しています。インターネットラジオだと普段は北陸では聴けない関西以西のキー局作成の番組やいろんな施設が出している情報を聴くことができます。ダウンロードして聴くこともできます。

この「まるびい・オン・ザ・ラジオ」に、「金沢の包み紙展」で9月30日に行われた高橋律子学芸員のレクチャーを聴



くことができます。お仕事の都合などで当日聴くことができなかつた方、当日参加したけど改めてまた内容を振り返りたいという方、ぜひぜひこのURLにアクセスしてみてください。

<http://marubiontheradio.com/>

高橋さんのレクチャーの個別ページ

<http://www.marubiontheradio.com/2008/01/1.html>

ボランティア交流会がありました

2008/02/04

2月1日、金沢21世紀美術館シアター 21で、第1回「ボランティア交流会」が開かれました。

これは今年度、金沢21世紀美術館（まるびい）で行われてきたボランティア活動の参加者、そしてボランティア登録をした方が一堂に介して各活動報告を発表しながら、他の活動をされているボランティアさんと交流を深めようというもの。

同じ丸い美術館に集いながら、普段はそれぞれ活動日が違っていたり、展覧会ごとの活動だったり、互いに顔は合わすことも少ないし、顔を合わせていても話を交わすまでは至らなくて、「せっかく一つの丸い美術館に集まっている仲間同士、交流を持ちたい」という声が上がっていました。今まで活動報告もその活動ごとに出していたのもあって、なかなか生の声で伝え合うという機会もなかったのが、今回初めて行われた交流会ではボランティア仲間同士一体感を持ち得た良い会だったと思います。

我々が「金沢の包み紙展」プロジェクトメンバーの発表は、展覧会に至るまでの「展覧会を作っていく」過程の試行錯



誤から友の会会員が関わったということで、画面に映した写真でもみんなで包み紙を床に広げてあれこれ考えるメンバーの姿が紹介されました。

現在ライブラリーの書架に入っている「資料集」、そして現在進行形のこのブログ、これから作る「記録集」の紹介を行いました。メインスピーカーだったY.Nさん、お疲れ様！

「金沢の包み紙展」ブログの今後について

2008/03/05

早くも3月がきてしまいました。ひな祭りも過ぎ、春がもう間近です。

さて、長らくこのブログをご愛顧くださりましてありがとうございました。「金沢の包み紙展」の記録集にこのブログのこともまとめていきますが、ブログをネット上でどのように残していくかについてお知らせします。

3月末をもって、このブログは終了とし、今までのログはレイアウトを整えてPDFとしてネット上で検索できる資料として残していくことになりました。今日の書き込みをもって最後のログとなります。

「金沢の包み紙展」では、「お店の包み紙」をグラフィックデザインとして考えた視点が皆様に新鮮に受け止められたようです。展覧会終了後もデザインを勉強している方や金沢らしいデザインに興味を持たれた方などからお問い合わせがあるそうです。ブログをいつまでも続けることはできませんが、資料として皆様に今後も検索されうるものとして残すことで、アーカイブとしてのお役に立てるのではないかと考えます。

今までのご支援、温かいエールをありがとうございました。心より感謝申し上げます。
(金沢の包み紙展プロジェクトメンバー一同)